

# 私立大学研究ブランディング事業が 目指すものとは

2016年度から始められた「私立大学研究ブランディング事業」は、2年目の選定が行われ、60の大学・短期大学が採択されている。改めて本事業の狙いと今後の方向性について、文部科学省私学助成課・一色潤貴氏に聞いた。

## ——私立大学研究ブランディング事業によって支援する対象とは？

本事業の前身として「私立大学研究基盤形成支援事業」というものがありました。同事業は、研究基盤を支援することを目的とした、研究プロジェクトに近い形での支援です。しかし、同事業を進めていく過程で、研究者個人の研究費支援を行う科学研究費補助金等との違いが明確でないという意見や大学全体の取り組みを支援する基盤的経費としての性格に立ち戻るべき等の意見もあり、事業の見直しを図っています。つまり、個人やグループの研究そのものを支援するのではなく、学長のリーダーシップのもと、特色ある研究の成果を用い、各大学が自らのブランディングを図る全学的な取り組みを対象に支援を行うという点が、この事業の特色です。

## ——「ブランディング」にフォーカスして支援を行うこと の背景、狙いとは？

大学内で取り組まれている研究を、特定のアカデミッ



文部科学省高等教育局  
私学部私学助成課

一色潤貴氏

ク層だけに訴求するのではなく、大学として何が自らの特色と考え、研究に取り組んでいるのか、それが社会的にどういう意味を持つのかといったことを、自らの大学の価値に位置づけ、再整理し、それを世の中に伝え、理解してもらおうということが、今の大学に不足しているのではないかと考えられること。それが背景にあります。そうした自校の価値を改めて大学全体で考えて頂き、自校の特色・強みを発揮してもらおうことを促していくための政策として、この事業を立ち上げました。

## ——社会に対してどうコミュニケーションしていくのか という点までが採択を決定する上での評価対象となっている？

配点区分表(図2)等を通じて各私立大学・短期大学へ示

図1 私立大学研究ブランディング事業 趣旨と支援対象

<b>趣旨</b>	学長のリーダーシップの下、大学の特色ある研究を基軸として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学の機能強化を促進する。				
<b>予算額</b>	2018年度予算額 56億円 ※2016年度・2017年度選定分及び「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の継続採択分の支援額を含む。				
<b>支援対象・選定方法</b>	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;"><b>タイプA【社会展開型】</b></td> <td style="text-align: center;"><b>タイプB【世界展開型】</b></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">地域の経済・社会、雇用、文化の発展や特定の分野の発展・深化に寄与する取り組み 申請は地方大学(3大都市圏以外に所在)または中小規模大学(収容定員8000人未満)に限定</td> <td style="text-align: center;">先端的・学術的な研究拠点の整備により、全国的あるいは国際的な経済・社会の発展、科学技術の進展に寄与する取り組み</td> </tr> </table> <p>学識経験者等で構成する「私立大学研究ブランディング事業委員会」の審査に基づき選定する。</p>	<b>タイプA【社会展開型】</b>	<b>タイプB【世界展開型】</b>	地域の経済・社会、雇用、文化の発展や特定の分野の発展・深化に寄与する取り組み 申請は地方大学(3大都市圏以外に所在)または中小規模大学(収容定員8000人未満)に限定	先端的・学術的な研究拠点の整備により、全国的あるいは国際的な経済・社会の発展、科学技術の進展に寄与する取り組み
<b>タイプA【社会展開型】</b>	<b>タイプB【世界展開型】</b>				
地域の経済・社会、雇用、文化の発展や特定の分野の発展・深化に寄与する取り組み 申請は地方大学(3大都市圏以外に所在)または中小規模大学(収容定員8000人未満)に限定	先端的・学術的な研究拠点の整備により、全国的あるいは国際的な経済・社会の発展、科学技術の進展に寄与する取り組み				

していますが、評価の観点で、一番配点が高いのが21点の「ブランディング戦略」の項目です。自校の将来ビジョンと今回打ち出すブランディング戦略がどう結びつくのか、自校の特色として浸透させたいイメージをターゲットとすべき層にいかにより具体的に浸透させていくのか、ターゲットが抱くイメージを分析し、認知、そして行動へといかにより動機づけしていくかといったプロセスの設計、全学的管理体制の位置づけ等、自校のブランディングにつながる活動全般について具体的に考え、実行頂くことを重視しています。研究の中身そのものへの評価は一部に留まり、研究内容が世界的に評価されているかどうかといった点は、事業の主旨ではありません。

## ——つまり、大学の将来ビジョンに確固たるものがある かどうか重要となるのでは？

将来ビジョンは、ある意味各私立大学・短期大学の建学の精神であり、全ての大学が本来有しているものですが、この事業を通じて、各大学に改めて具体的に考えてもらいたいということも狙いの一つです。大学が掲げるビジョンはあいまいなところも多い。また、建学時の理念やビジョンが明確であったとしても、これまでの社会の変化を鑑み、今の時代に即した実現すべき大学像になっているのかを、その理念等を踏まえ、再考頂くことが重要だと思います。この事業に申請しようとするとその点を考えざるを得ない。これからの自らの大学のあり様がどうあるべきかについて立ち戻って考え、限られた資源を生かしてどの点に戦略を特化していくのかを検討する機会になると考えています。

## ——大規模大学と中・小規模の大学では、戦略の性質も大きく異なることから、タイプAとBに分かれている？

そうです。タイプAは「社会展開型」として地域の経済・社会、雇用、文化の発展や特定の分野の発展・深化に寄与する取り組みが対象。タイプBは先端的・学術的な研究拠点の整備により、全国的あるいは国際的な経済・社会の発展、科学技術の進展に寄与する取り組みが対象です。基盤的経費ですので、全ての私立大学・短期大学に共通した支援としながらも、そのなかで特徴に応じて、それぞれ

の特色化に向けた取り組みに対して優先的に配分しようとする仕組みです。地方の小規模大学であっても、本来有する独自の「売り」をうまく魅力発信し、生き残っていくための取り組み等を支援するためにタイプAという分類を設けています。地域や文化、経済等と密接にブランディングを推進するものを評価しており、結果、地方の私立大学等からも多くの申請を頂き、小規模校や短期大学含め、多様な学校が採択されています。

## ——2017年度の申請の状況は？

タイプAが123校の申請に対し33校を選定、タイプBは65校の申請に対し27校選定しました(採択校の一覧は図表3)。全体に申請内容はレベルアップしています。2016年度の公募の際はここまで審査の観点が多分化しておらず、また前身の事業の継続という誤解も一部あり「我々はこういう研究をしたい」と、一部局の研究内容の詳細が書かれているだけのものも散見されましたが、2017年度の申請からは、全学的な観点からの検討プロセスを反映した内容となるよう工夫をしたものが多く申請されていました。

人文・社会系からの申請も非常に多く、また、短期大学についても昨年の1校に対して今年は5校が採択され、個性のあるものが選ばれています。

## ——今後に向けた事業の動きは。

2017年度の配分は年度末に決定しますが、1校あたり2000万～3000万円になる見込みです。また、2018年度の公募に向けて、予算案として経常費は1億円増の56億円を計上しており、50校程度の採択をしたいと考えています。3月～4月には公募を開始できればと考えています。

ブランディング戦略は、「言うは易く行うは難し」ですが、原点に立ち戻り、自分の大学が何を目指しているのか、自分達の強みが何かを再確認し、それを社会へどう打ち出し、自らの強みの形成へと好循環させていくのかを考えて頂くことが大切だと思います。全学的・組織的な取り組みとして、よりレベルの高いものが多く申請されることを期待したいと思っています。

図2 私立大学研究ブランディング事業 配点区分表【29年度】

■実施体制（調査票）

	設問	回答		
		実施	一部実施	未実施
(1) 実施体制	1 予算配分	5点	3点	0点
	2 研究成果・測定方法に当たっての意見聴取	3点		0点
	3 外部評価体制	5点	3点	0点
	4 PDCAサイクルの整備	5点	3点	0点
	5 PDCAサイクルの連携	5点	3点	0点
	小計		23点	
(2) 支援体制	6 研究実施体制【重点項目】	8点	3点	0点
	7 研究支援体制【重点項目】	8点	3点	0点
	8 自己点検・評価制度	5点	2点	0点
	9 研究業績に係る評価制度	5点	2点	0点
	小計		26点	
(3) ブランディング	10 ビジョンと独自色の整理・学内周知	3点		0点
	11 ステークホルダーの検討	3点		0点
	12 浸透させるイメージの整理	3点		0点
	13 現状の把握・分析	3点		0点
	14 効果的な情報発信手段・内容を検討	3点		0点
	15 工程及び成果指標・達成目標の策定	3点		0点
	小計		18点	
	計		67点	

■事業内容（計画書）

審査の観点	点数			
	優れている	良好である	やや不十分である	不十分である
(1) 事業目的	9点	6点	3点	0点
自大学、外部環境、社会情勢等に係る現状・課題が適切に分析されているか。	3点	2点	1点	0点
事業目的が現状・課題の分析内容を踏まえたものとなっているか。	3点	2点	1点	0点
事業目的と大学の将来ビジョンに整合性があるか。	3点	2点	1点	0点
(2) 期待される研究成果	9点	6点	3点	0点
期待される成果、貢献・寄与する範囲が明確にされ、全学的な優先課題として適切か。	3点	2点	1点	0点
本事業の趣旨に則った研究テーマか。	3点	2点	1点	0点
(5) 年次計画を踏まえ、実現可能性があるか。	3点	2点	1点	0点
(3) ブランディング戦略	21点	14点	7点	0点
大学の将来ビジョンと本事業で打ち出す独自色が適切に位置付けられているか。	3点	2点	1点	0点
当事業で期待する効果を踏まえ、事業の対象が明確にされているか。	3点	2点	1点	0点
本事業を通じて浸透させたい大学のイメージが具体的にされ、本事業の趣旨や取組内容に整合しているか。	3点	2点	1点	0点
自大学の現状のイメージ等を分析し、情報発信内容・手段を適切に検討しているか。	3点	2点	1点	0点
ブランディングの工程が具体的であるとともに、実現可能な内容か。	3点	2点	1点	0点
ブランディングの工程ごとに適切な成果指標及び達成目標が設定されているか。	3点	2点	1点	0点
達成目標の進捗状況を把握する方法が適切か。	3点	2点	1点	0点
(4) 事業実施体制	9点	6点	3点	0点
全学的に事業を実施する体制が整備されているか。	3点	2点	1点	0点
PDCAサイクルが有効に機能することが期待されるか。	3点	2点	1点	0点
学外との有機的な連携が期待されるか。	3点	2点	1点	0点
(5) 年次計画	12点	8点	4点	0点
各年度の目標設定が適切か。	3点	2点	1点	0点
達成度評価が可能な指標が設定されているか。	3点	2点	1点	0点
目標に対する実施計画が適切か。	3点	2点	1点	0点
目標達成度の測定方法が適切か。	3点	2点	1点	0点
(6) 既選定事業との関連【該当する場合のみ】	0点			-4点
既選定事業の進捗状況に照らして、今回の申請事業をさらに実施することが適切か。	0点			-1点
既選定事業と今回の申請事業の内容に重複がないか。	0点			-1点
複数の独自色を打ち出す必要性が認められるか。	0点			-1点
実施・支援体制の整備状況に照らして、それぞれの事業で十分な成果が期待されるか。	0点			-1点
(7) 施設・装置・設備の整備内容【該当する場合のみ】	0点			-2点
整備が事業を実施するうえで必要不可欠か。	0点			-1点
事業内容と比べて整備内容が過大となっていないか。	0点			-1点
計		60点		

図3 平成29年度 私立大学研究ブランディング事業 選定校一覧

項番	大学名	タイプ	事業名	所在地	事業期間	分野		
						人文・社会系	理工・情報系	生物・医歯系
1	北海道科学大学	A	北国生活環境科学拠点～積雪寒冷地域における医社工連携をととした超高齢社会対応のための技術展開と普及～	北海道	3年	○	○	○
2	八戸工業大学	A	北東北の人口減少社会における自律的課題解決に向けたハブ機能構築と社会的資本の維持開発研究事業	青森県	5年		○	
3	岩手医科大学	A	医歯薬連携による全身疾患としての血管病の地域還元型学際的研究拠点	岩手県	5年			○
4	東北公益文科大学	A	日本遺産を誇る山形県庄内地方を基盤とした地域文化とIT技術の融合による伝承環境研究の展開	山形県	5年	○	○	
5	東京慈恵会医科大学	A	働く人の疲労とストレスに対するレジリエンスを強化するEvidence-based Methodsの開発	東京都	5年			○
6	多摩大学	A	大都市郊外型高齢化へ立ち向かう実践的研究 - アクティブ・シニア活用への経営情報学的手法の適用 -	東京都	5年	○		
7	新潟薬科大学	A	健康を支える地域産物のブランド化のコアとなる大学	新潟県	3年			○
8	新潟工科大学	A	高度シミュレーション技術による地域の「風」の課題解決と人材育成	新潟県	5年		○	
9	新潟医療福祉大学	A	リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合による先端的研究拠点 Sports & Health for all in Niigata -	新潟県	5年			○
10	金沢工業大学	A	これからの科学技術者倫理研究 ～社会が必要とする課題への取り組み～	石川県	5年		○	
11	松本大学	A	健康づくりを核に自治体・企業・医療機関と連携して進める元気な地域づくり	長野県	5年	○		
12	佐久大学	A	健康長寿(佐久)を牽引する「足育(あしく)」研究プロジェクト	長野県	3年	○		○
13	岐阜女子大学	A	地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業	岐阜県	5年	○		
14	名古屋商科大学	A	地域経済の持続発展を担うアントレプレナーに関する研究拠点整備事業	愛知県	3年	○		
15	岡崎女子短期大学	A	「子ども好適空間」研究拠点整備事業	愛知県	5年	○		
16	長浜バイオ大学	A	フレキシブル植物工場システムと先端バイオ技術を基盤とした新たなグリーンイノベーション	滋賀県	5年			○
17	京都造形芸術大学	A	京都における伝統文化のイノベーションサイクルを高度化させる拠点の形成	京都府	5年	○		
18	大阪医科大学	A	オミックス医療に向けた口腔内細菌叢研究とライフコース疫学研究融合による少子高齢中核市活性化モデル創出	大阪府	5年			○
19	大阪工業大学	A	モノづくり大阪に躍動感をも地域産業支援プラットフォーム(大阪工業大学)の挑戦 -	大阪府	5年		○	
20	神戸常盤大学	A	地域子育てプラットフォームの構築を通じたAll-Winプラン	兵庫県	5年	○		
21	帝塚山大学	A	「帝塚山プラットフォーム」の構築による学際的「奈良学」研究の推進	奈良県	3年	○		
22	岡山商科大学	A	『寄り添い型研究』による地域価値の向上	岡山県	3年	○		
23	吉備国際大学	A	エコ農業ブランディングによる発展的地域創成モデルの形成	岡山県	5年	○		○
24	福山大学	A	瀬戸内海 しまなみ沿岸生態系に眠る多面的機能の解明と産業支援・教育	広島県	5年			○
25	徳山大学	A	「健幸(ウェルネス)都市しゅうなん」構築に向けた研究・活動拠点の創設	山口県	5年	○		
26	四国大学	A	「阿波藍」の新たな価値創造を目指した文化的・科学的研究及びその魅力発信・人材育成拠点の構築	徳島県	5年	○		○
27	徳島文理大学	A	藻類成長因子を用いた海藻栽培技術イノベーション	徳島県	5年			○
28	久留米大学	A	すこやかな「次代」と「人」を創る研究拠点大学へ ～先端がん治療・研究による挑戦～	福岡県	5年			○
29	福岡歯科大学	A	高齢者ヘルスプロモーションと地域包括ケアへの口腔医学の展開～要介護化阻止と誤嚥性肺炎ゼロを目指して～	福岡県	5年			○
30	福岡医療短期大学	A	口腔機能向上でイキイキ長寿社会の実現一話そう・食べよう・いつまでも -	福岡県	5年			○



項番	大学名	タイプ	事業名	所在地	事業期間	分野		
						人文・社会系	理工・情報系	生物・医歯系
31	西九州大学短期大学部	A	発達障害児の二次障害予防の支援研究～二次障害を予防し関係者の負担軽減を目指すために～	佐賀県	5年	○		
32	佐賀女子短期大学	A	短期大学におけるダブルディグリープログラムを推進する韓日語併記学習教材の開発と韓国文化研究拠点の構築	佐賀県	5年	○		
33	鹿児島女子短期大学	A	鹿児島の食文化の継承と発展のための拠点形成～「鹿女短 食育ステーション」構築事業～	鹿児島県	5年	○		
34	自治医科大学	B	実践的抗加齢医学の開発と普及:健康寿命の延長を目指して	栃木県	5年			○
35	日本工業大学	B	次世代動力源としての全固体電池技術の開発と応用	埼玉県	3年		○	
36	北里大学	B	農医連携研究拠点の創出:食を介した腸内環境制御による健康社会構築	東京都	5年			○
37	東京都市大学	B	都市研究の都市大:魅力ある未来都市創生に貢献するエイジングシティ研究および実用化の国際フロンティア	東京都	5年		○	
38	順天堂大学	B	スポーツ科学による「Health Creation」:代謝科学研究を基軸に世界展開するブランディング事業	東京都	5年	○		○
39	上智大学	B	「人間の安全保障」実現に取り組む国際的研究拠点大学としてのブランド形成	東京都	5年	○		
40	成蹊大学	B	学融合的アプローチによる地域共生社会の実装スキームの確立と社会実践	東京都	5年	○	○	
41	創価大学	B	途上国における持続可能な循環型社会の構築に向けた適正技術の研究開発と新たな地域産業基盤の形成	東京都	5年		○	
42	中央大学	B	超スマート社会の実現に向けた沿岸都市における防災プラットフォームの開発	東京都	5年		○	
43	帝京大学	B	グローバルな視点からの危機管理3カテゴリー(事故、災害、テロ)の学際的エビデンス構築	東京都	5年			○
44	東京医科大学	B	先制医療による健康長寿社会の実現を目指した低侵襲医療の世界的拠点形成	東京都	5年			○
45	東京歯科大学	B	顎骨疾患の集学的研究拠点形成:包括的な顎口腔機能回復によるサステナブルな健康長寿社会の実現	東京都	5年			○
46	東京電機大学	B	グローバルIoT時代におけるセキュアかつ高度な生体医工学拠点の形成	東京都	5年		○	○
47	東京理科大学	B	スペース・コロニー研究拠点の形成 ～宇宙滞在技術の高度化と社会実装の促進～	東京都	5年		○	
48	東京薬科大学	B	健康社会の実現に向けた創薬化学の展開と人材育成	東京都	5年			○
49	東洋大学	B	多階層的研究によるアスリートサポートから高齢者ヘルスサポート技術への展開	東京都	5年		○	
50	日本大学	B	スポーツ日大によるアンチ・ドーピング教育研究拠点確立とポストオリンピックへの展開	東京都	5年	○		○
51	法政大学	B	江戸東京研究の先端的・学際的拠点形成	東京都	5年	○	○	
52	立正大学	B	立正大学ウズベキスタン学術交流プロジェクト	東京都	3年	○		
53	早稲田大学	B	多様な全世代が参画する社会へのデザイナー-医理工社連携による新知と実践—	東京都	5年	○	○	○
54	関東学院大学	B	命を守り希望を繋ぐ—新しい「防災・減災・復興学」の構築と研究拠点形成—	神奈川県	5年	○	○	
55	藤田保健衛生大学	B	高ストレス社会を克服する「精神神経疾患の最先端研究開発拠点大学」としてのブランド確立	愛知県	5年			○
56	名城大学	B	新規ナノ材料の開拓と創製による名城大ブランド構築プログラム	愛知県	5年		○	
57	京都産業大学	B	“生命活動の根幹”をなすタンパク質研究の世界的拠点の形成と推進	京都府	5年			○
58	大谷大学	B	仏教を基軸とする国際的研究拠点の形成と〈人間学〉の推進	京都府	5年	○		
59	関西大学	B	オープン・プラットフォームが開く関大の東アジア文化研究	大阪府	5年	○		
60	福岡大学	B	ライフタイムにおける活力形成による健康な時間の創造～福奏プロジェクト～	福岡県	5年	○		○